| No | 4270830 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 麦島勝撮影写真デジタルアーカイブ事業 | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | | |
| | | | | 款項目コード(款-項-目) | 9 | — | 7 | — | 5 | |
| 施策の体系(八代市総合計画における位置づけ) | 基本目標(章) | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード(大ー中ー小) | 2 | — | 21 | — | 28 | |
| | 施策の大綱(節)【政策】 | 2 | 生涯を通じた学びのまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | 3 | 誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ” | | | |
| | 施策の展開(項)【施策】 | 1 | 生涯学習社会の構築 | | 施策大項目 | 2 | 健やかな暮らしの実現 | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 2 | 生涯学習機会および学習情報の提供 | | 施策小項目 | 2 | 学び・教育の充実 | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要(全体事業の内容) | 八代市在住の写真家麦島勝氏撮影写真は、昭和の八代及び熊本県下各地の歴史や生活文化を知る上でかけがえの無い貴重な財産である。本事業では、平成26年度に麦島氏より寄贈を受けた写真約4,000点を恒久的に保存・活用するために、資料情報を調査・整理し、さらにデジタルデータ化して、3カ年計画でデータベースを構築、これを博物館ホームページを通じて公開して、教育・まちづくり等の素材として広く活用してもらう。 |
| 実施手法(該当欄を選択) | 全部直営　● 一部委託　全部委託<br>補助金(補助先:　　)<br>その他( |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務(該当欄を選択) | |
|---|---|---|---|---|
| | 平成27年度 | 平成29年度 | | 1 義務である<br>● 2 義務ではない |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象(誰・何を) | 麦島勝撮影写真約4,000点 |

| 事業内容(手段、方法等) | 成果目標(どのような効果をもたらしたいのか) |
|---|---|
| (1)　スキャニング委託による写真約4,000点のデジタル画像化作業を、平成27年内に完了する。<br>(2)　写真約1,300点について調査・整理作業（1点ごとにナンバリング、封筒に入れる保存措置、調書作成）を行う。<br>(3)　平成28年1月～3月にかけて、臨時職員により整理したデータ（1点ごとの画像・文字情報）のデータベース入力を行い、平成28年度当初より、博物館ホームページ上で公開。 | ○写真のデジタル画像化により、画像の永久保存を図る。<br>○写真を調査・整理し、デジタルデータベースとして博物館ホームページを通じて市内外に公開することにより、教育・観光・町づくり等のための魅力ある素材として、館蔵写真資料を広く利活用してもらうことができるようにする。 |

| コスト推移 | | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費 | (単位:千円) | － | 0 | 4,374 | 3,352 | 3,352 | 0 | 0 |
| 事業費(直接経費) | (単位:千円) | 0 | 0 | 1,644 | 622 | 622 | 0 | 0 |
| 財源内訳 | 国県支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | その他特定財源(特別会計→繰入金) | 0 | 0 | 1,644 | 622 | 622 | 0 | 0 |
| | 一般財源(特別会計→事業収入) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 人件費 | | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費(正規職員) | (単位:千円) | － | 0 | 2,730 | 2,730 | 2,730 | 0 | 0 |
| 正規職員従事者数 | (単位:人) | － | 0.00 | 0.39 | 0.39 | 0.39 | 0.00 | 0.00 |
| 臨時職員等従事者数 | (単位:人) | － | 0.00 | 0.25 | 0.25 | 0.25 | 0.00 | 0.00 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 写真資料の整理・データ公開点数 | 点 | 計画 | － | | | 1,300 | 1,300 | 900 |
| | | | 実績 | | | | 1,800 | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 博物館ホームページ内「麦島勝撮影写真」検索ページのアクセスカウント数 | アクセスカウント数は、公開したデータの閲覧利用数を示し、本事業の成果を図る数値としてふさわしい | カウント | 計画 | － | | | | 1,000 | 2,000 |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | 麦島氏の写真は芸術作品として、また、昭和の世相をとらえた歴史資料として、近年、全国的に高い評価を得ている。本事業により、作家寄贈の作品群は永久保存が図られるところとなり、博物館コレクションの充実と同時に、八代市民共有の財産として、生涯学習、まちづくり等に幅広く活用することが可能となる。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | ● 有効である<br>概ね有効である<br>有効でない | 計画通り全写真のデジタル化を完了した。写真・データの入力と公開も、計画を大きく上回る速度で順調に進んでいる。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | ● 現行どおりでよい<br>見直しが必要 | 本事業は、専門知識と実績を持った博物館職員による実施が必要で、人材確保の面から見て事業全体の民間委託等は考えられない。現在の実施方法で進行させれば、平成29年度末には予定通り作業完了、事業の目的は達成されることになる。 |

| 4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善 | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>貴重な写真の価値を最大限に引き出すために、現行通り計画を遂行し、すべてのデータを公開することが重要である。同時に、本事業の目的を、市内外に周知する活動も積極的に行っていくことが必要である。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 外部評価の実施 | | 無 | 実施年度 |
| 改善進捗状況等 | H27進捗状況 | | |
| | H27取組内容 | | |

| | |
|---|---|
| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>特になし |

| No | 4270828 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 教育普及活動事業 | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | |
| | | | | 款項目コード(款-項-目) | 9 | — | 7 | — | 5 |
| 施策の体系(八代市総合計画における位置づけ) | 基本目標(章) | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード(大ー中ー小) | 2 | — | 21 | — | 12 |
| | 施策の大綱(節)【政策】 | 2 | 生涯を通じた学びのまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | | | | |
| | 施策の展開(項)【施策】 | 1 | 生涯学習社会の構築 | | 施策大項目 | | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 2 | 生涯学習機会および学習情報の提供 | | 施策小項目 | | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要(全体事業の内容) | 市民及び来館者の歴史・文化についての学習を助け、自主的に学び、新しい知識を獲得することの楽しさを広く知ってもらう。そのために、,博物館学芸員や館外講師による講座・講演会の開催、市の事業である出前講座や学校への出張講義、諸団体が開催するセミナー等への講師派遣、常設展示の理解を助けるためのオリジナル展示解説シートの作成などを行う。 |
| 実施手法(該当欄を選択) | ● 全部直営　一部委託　全部委託<br>補助金(補助先:　　)<br>その他( |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務(該当欄を選択) | |
|---|---|---|---|---|
| | 合併前 | 未定 | | 1 義務である<br>● 2 義務ではない |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象(誰・何を) | 市民（幼児から高齢者まで）及び市外からの来館者 |

| 事業内容(手段、方法等) | 成果目標(どのような効果をもたらしたいのか) |
|---|---|
| (1)特別展覧会事業と連動させた講演会・講座活動を開催する。<br>(2)博物館友の会との共催で、第4回「やつしろ連歌会」を開催する。<br>(3)市の出前講座や小中高等学校への出張講義、各種団体主催の講演会やセミナーへの講師派遣を行う。<br>(4)常設展示鑑賞の理解を助けるための、オリジナル展示解説シートを作成する。<br>(5)博物館実習（大学からの依頼による学芸員資格取得希望者への現場実習）を行う。 | 市民や来館者に八代の歴史や文化について幅広い知識を身に付け、同時に、学ぶことの楽しさを体感してもらう。 |

| コスト推移 | | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費 | (単位:千円) | － | 4,966 | 4,572 | 4,792 | 5,020 | 5,020 | 5,020 |
| 事業費(直接経費) | (単位:千円) | 1,085 | 136 | 92 | 102 | 120 | 120 | 120 |
| 財源内訳 国県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 その他特定財源(特別会計→繰入金) | | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 一般財源(特別会計→事業収入) | | 1,079 | 136 | 92 | 102 | 120 | 120 | 120 |
| 人件費 | | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費(正規職員) | (単位:千円) | － | 4,830 | 4,480 | 4,690 | 4,900 | 4,900 | 4,900 |
| 正規職員従事者数 | (単位:人) | － | 0.69 | 0.64 | 0.67 | 0.70 | 0.70 | 0.70 |
| 臨時職員等従事者数 | (単位:人) | － | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 館内における講座・講演会の開催回数 | 回 | 計画 | － | 21 | 29 | 29 | 29 | 30 |
| | | | 実績 | 29 | 21 | 29 | 32 | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 講座・講演会への参加者数 | 参加者の数は、知識の普及、市民の学ぶ機会の増加を表すから。 | 人 | 計画 | － | 750 | 950 | 950 | 950 | 1,000 |
| | | | | 実績 | 1,146 | 742 | 1,160 | 1,080 | － | － |
| ② | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | 館が独自に作成する各種資料は、生涯学習、教育現場で有効に活用されている。館内外の講師による特別講演会には、市民のみならず、熊本県南部を中心にした県全域からの聴講者も少なくない。古文書講座（初級・上級）、実技講座も人気が高い。本市に関わる歴史・文化の教育、啓発事業は、国・県レベルでは行われておらず、今後とも市が主体となって行う必要がある。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | 有効である<br>● 概ね有効である<br>有効でない | 本事業におけるさまざまな企画は、市民生活の中に根付いており、成果目標の達成状況は概ね良好である。展覧会など他の事業との連携、世間の関心の動向等も考慮に入れながら、講座・講演会の開催に努めていけば、さらに成果を向上させることが可能であろう。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | ● 現行どおりでよい<br>見直しが必要 | 本市規模の地域博物館において、現状の成果を下げずに事業遂行可能な指定管理者を選定することは、きわめて困難である。コスト削減や動員計画には、十分に配慮して事業を遂行している。体験講座などで、特に材料費を伴うものについては実費負担を原則としており、受益者負担の適正化は図られている。 |

| 4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善 | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>八代の歴史・文化の普及については、博物館がもっとも充実したスタッフ、学習環境を備えており、今後とも、市が主導する形で、最新の情報提供と学習機会を市民及び来館者へ提供し続けたい。 |

| 外部評価の実施 | | 有 ： 他の制度による外部評価 | 実施年度 | 平成26年度 |
|---|---|---|---|---|
| 改善進捗状況等 | H27進捗状況 | | | |
| | H27取組内容 | | | |

| | |
|---|---|
| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>特になし |

| No | 4270826 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 博物館常設展示事業 | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | | |
| | | | | 款項目コード(款-項-目) | 9 | — | 7 | — | 5 | |
| 施策の体系(八代市総合計画における位置づけ) | 基本目標(章) | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード(大ー中ー小) | 2 | — | 21 | — | 10 | |
| | 施策の大綱(節)【政策】 | 2 | 生涯を通じた学びのまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | | | | | |
| | 施策の展開(項)【施策】 | 1 | 生涯学習社会の構築 | | 施策大項目 | | | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 2 | 生涯学習機会および学習情報の提供 | | 施策小項目 | | | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要(全体事業の内容) | 博物館収蔵品及び松井文庫所蔵品をもとに、八代の歴史と文化を、年間を通じてさまざまな角度から紹介する。<br>【第一常設展示】<br>八代の考古・歴史・民俗・美術工芸の各分野について、資料の保存に留意し、適宜展示替えを行ないつつ、紹介する。<br>【第二常設展示】<br>松井文庫所蔵品のなかから、絵画・能面・能装束・武器武具・漆工芸品など、同文庫が全国に誇る武家コレクションを、年5回程度の展示替えを行ないながら紹介する。 |
| 実施手法(該当欄を選択) | ● 全部直営　一部委託　全部委託<br>補助金(補助先:　)<br>その他( |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務(該当欄を選択) | |
|---|---|---|---|---|
| | 合併前 | 未定 | | 1 義務である<br>● 2 義務ではない |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象(誰・何を) | 市民（幼児から高齢者まで）及び市内外からの来館者 |

| 事業内容(手段、方法等) | 成果目標(どのような効果をもたらしたいのか) |
|---|---|
| 【第一常設展示】<br>八代焼（高田焼）・歴史・考古・金工・仏教美術・和紙・民俗・農具・漁具を総合的に展示する。各分野、年4回程度の展示替えを行なう。<br><br>【第二常設展示】<br>松井文庫が所蔵する絵画・能面・能装束・武器武具・漆工芸品など、同文庫が全国に誇る武家コレクションを紹介する。年4回の展示替えを行なう<br><br>【その他】<br>新たに発見された笠鉾水引幕（本館へ寄託）と、収蔵品の屏風による小企画展示を行う。 | ○常設展示を一覧することにより、八代の歴史と文化について、その概略を理解してもらう。<br>○全国屈指の武家コレクションである松井文庫の所蔵品を鑑賞することにより、わが国のすぐれた美術・工芸に親しんでもらう。<br>○歴史・文化に関する新鮮な情報に接してもらう。 |

| コスト推移 | | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費 | (単位:千円) | － | 8,850 | 6,925 | 8,730 | 8,870 | 8,870 | 8,870 |
| 事業費(直接経費) | (単位:千円) | 2,559 | 2,830 | 2,795 | 2,850 | 2,850 | 2,850 | 2,850 |
| 財源内訳 国県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 その他特定財源(特別会計→繰入金) | | 467 | 346 | 449 | 600 | 600 | 600 | 600 |
| 財源内訳 一般財源(特別会計→事業収入) | | 2,092 | 2,484 | 2,346 | 2,250 | 2,250 | 2,250 | 2,250 |
| 人件費 | | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費(正規職員) | (単位:千円) | － | 6,020 | 4,130 | 5,880 | 6,020 | 6,020 | 6,020 |
| 正規職員従事者数 | (単位:人) | － | 0.86 | 0.59 | 0.84 | 0.86 | 0.86 | 0.86 |
| 臨時職員等従事者数 | (単位:人) | － | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示企画の回数（展示替えの回数）が活動指標として考えられるが、一定の限られた常設展示スペースにおける展示企画回数には制約があり、現状以上に増やすことは困難であり、本事業の活動指標としての設定、数値化は難しい。

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

常設展示のみの利用者数が、成果指標として考えられるが、常設展示と特別展覧会の利用者を完全に区分することができない（施設の構造による。特別展覧会期間中は、その料金内で常設展示を見ることが可能）ため、正確な利用者数の把握が困難であり、本事業の成果指標としての設定、数値化は困難である。

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | 本事業は、児童生徒の校外学習、市民の生涯学習で、有効に活用されている。一般の来館者にとっても、八代の歴史・文化を一望することができる、市内に数少ない貴重な場所として機能している。競合する類似事業もなく、八代市域を主な対象に紹介することから考えても、市が事業主体となることが妥当であると考えられる。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | 有効である<br>● 概ね有効である<br>有効でない | 成果目標の達成は順調に推移している。今後、絶えざる調査研究に努め、新たな文化財の発掘と紹介を心がけ、新鮮な情報を日常的に提供していくならば、さらに有効なものとなるだろう。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | ● 現行どおりでよい<br>見直しが必要 | 県内には、本事業の水準を維持し、遂行可能な民間や団体はなく、民間委託、指定管理者制度の導入は困難である。きわめて専門性の高い事業内容であり、また、展示資料については個人財産に絡む問題等もあるため、市の正規職員により、現行どおり実施されるべきものと考える。 |

| 4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善 | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>生涯学習や児童生徒の校外学習の場、一般の来館者への市の歴史・文化の窓口・ショールームとして、今後とも市民及び来館者に、日常的に新鮮な情報を提供し続けることが重要である。 |

| 外部評価の実施 | | 有 ： 他の制度による外部評価 | 実施年度 | 平成26年度 |
|---|---|---|---|---|
| 改善進捗状況等 | H27進捗状況 | | | |
| | H27取組内容 | | | |

| | |
|---|---|
| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>特になし |

| No | 4270827 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 博物館展示資料調査事業 | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | |
| | | | | 款項目コード(款-項-目) | 9 | — | 7 | — | 5 |
| 施策の体系(八代市総合計画における位置づけ) | 基本目標(章) | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード(大ー中ー小) | 2 | — | 21 | — | 11 |
| | 施策の大綱(節)【政策】 | 2 | 生涯を通じた学びのまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | | | | |
| | 施策の展開(項)【施策】 | 1 | 生涯学習社会の構築 | | 施策大項目 | | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 2 | 生涯学習機会および学習情報の提供 | | 施策小項目 | | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要(全体事業の内容) | 八代に伝わるさまざまな歴史資料の調査研究を行い、魅力ある展示や教育普及活動等に供する。わが国の歴史資料として全国的にも注目されている松井文庫所蔵古文書群（旧八代城主松井家に伝来した近世の古文書群約1万点）の整理、調査台帳の作成、調査報告書の刊行を中心に行なう。 |
| 実施手法(該当欄を選択) | ● 全部直営　一部委託　全部委託<br>補助金(補助先:　　)<br>その他( |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務(該当欄を選択) | |
|---|---|---|---|---|
| | 合併前 | 未定 | | 1 義務である<br>● 2 義務ではない |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象(誰・何を) | 市民及び歴史研究者や愛好者、大学や博物館等の研究機関 |

| 事業内容(手段、方法等) | 成果目標(どのような効果をもたらしたいのか) |
|---|---|
| 古文書調査概要<br><br>調査期間　6月15日（月）～6月19日（金）　5日間<br>調査件数　松井文庫所蔵古文書群のうち約250通<br>調査指導　元 北九州市立いのちのたび博物館歴史課長　永尾正剛<br>調査内容　各古文書の調書作成ならびに写真撮影を行い、資料台帳化する。<br>その他　「松井文庫所蔵古文書調査報告書18」を年度末に刊行 | わが国を代表する近世武家文書である松井文庫所蔵古文書群の記録台帳を作成して全体を把握し、成果は調査報告書刊行等により公開して、あらたな歴史像構築のために重要な史料を提供する。 |

| コスト推移 | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費　(単位:千円) | － | 4,064 | 5,546 | 3,889 | 5,850 | 3,980 | 5,850 |
| 事業費(直接経費)　(単位:千円) | 560 | 424 | 1,276 | 459 | 1,300 | 480 | 1,300 |
| 財源内訳　国県支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳　地方債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳　その他特定財源(特別会計→繰入金) | 48 | 60 | 36 | 74 | 80 | 80 | 80 |
| 財源内訳　一般財源(特別会計→事業収入) | 512 | 364 | 1,240 | 385 | 1,220 | 400 | 1,220 |
| 人件費 | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費(正規職員)　(単位:千円) | － | 3,640 | 4,270 | 3,430 | 4,550 | 3,500 | 4,550 |
| 正規職員従事者数　(単位:人) | － | 0.52 | 0.61 | 0.49 | 0.65 | 0.50 | 0.65 |
| 臨時職員等従事者数　(単位:人) | － | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

古文書調査日数が活動指標として考えられるが、他の諸事業との日程上の兼ね合い、指導者の都合、博物館の処理能力もあり、年間5日程度の調査が限界であり、現状のスタッフ数では、活動指標としての設定は難しい。

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

成果指標として、調査した文書の総点数を設定することが考えられるが、文書には、形式、内容によってかなり長短に差があり、一通あたりの調査に要する時間は一定ではない。また、文書によっては、調査時に応急の修復をほどこしながら作業を進める必要もあり、成果を調査点数によって単純に数値化することには、ほとんど意味がない。

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | 松井文庫所蔵古文書群は、桃山時代から江戸時代のわが国の歴史を考える上で、全国でも第一級の史料である。本事業によって、はじめてその実像が明らかになり、さまざまな利活用が可能になる。調査報告書の刊行により、本事業への評価と期待は、ますます高まっている。市民はじめ、全国的にも事業の継続と完成が待ち望まれている。国、県、民間に競合する事業はない。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | ● 有効である<br>概ね有効である<br>有効でない | 平成6年度の事業開始より、既に報告書18冊を刊行、調査終了分の文書については特別展覧会や常設展示で紹介しており、きわめて順調に推移している。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | ● 現行どおりでよい<br>見直しが必要 | 本事業の遂行可能な民間の事業者は県内になく、目的や形態が類似・関連する事業もない。本事業は、未整理の文化遺産を発掘、整理、紹介していくものであり、正規職員が責任を持ち継続して当たるべき事業である。本事業報告書の販売価格は、類似の書籍と比較しても適正であり、受益者負担の立場からも問題はない。 |

| 4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善 | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>松井文庫所蔵古文書群は、わが国を代表する近世文書であり、その価値は計り知れない。本事業は、その全貌を解明していくうえでの重要な基礎事業であり、八代が全国に誇る教育・文化事業として、八代市の力で、継続、完成させていかねばならない。 |

| 外部評価の実施 | | 有 ： 他の制度による外部評価 | 実施年度 | 平成26年度 |
|---|---|---|---|---|
| 改善進捗状況等 | H27進捗状況 | | | |
| | H27取組内容 | | | |

| | |
|---|---|
| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>特になし |

| No | 4270829 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 博物館施設整備事業 | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | | |
| | | | | 款項目コード(款-項-目) | 9 | — | 7 | — | 5 | |
| 施策の体系(八代市総合計画における位置づけ) | 基本目標(章) | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード(大ー中ー小) | 2 | — | 21 | — | 23 | |
| | 施策の大綱(節)【政策】 | 2 | 生涯を通じた学びのまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | 3 | 誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ” | | | |
| | 施策の展開(項)【施策】 | 1 | 生涯学習社会の構築 | | 施策大項目 | 2 | 健やかな暮らしの実現 | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 3 | 社会教育施設の整備・充実 | | 施策小項目 | 2 | 学び・教育の充実 | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要(全体事業の内容) | 博物館は平成3年の開館以来25年を経過し、施設・設備に改修の必要な箇所が多く見られるようになってきた。本事業では、市の建設計画に基づき、中長期的な改修計画に沿って、大型の施設・設備の改修事業を行ない、それにより、安全・快適な社会教育施設を市民に提供する。 |
| 実施手法(該当欄を選択) | ● 全部直営　一部委託　全部委託<br>補助金(補助先:　)<br>その他( |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務(該当欄を選択) | |
|---|---|---|---|---|
| | 平成25年度 | 未定 | | 1 義務である<br>● 2 義務ではない |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象(誰・何を) | 博物館の施設・設備 |

| 事業内容(手段、方法等) | 成果目標(どのような効果をもたらしたいのか) |
|---|---|
| 博物館展示棟空調用熱源器の解体修理<br><br>博物館展示棟の冷暖房を掌る機械室の熱源器（平成15年更新）について、オーバーホールし、劣化した部品の交換を行う。 | 文化財の保存・公開に適し、利用者にとって常に安全・快適な施設であるよう維持管理する。 |

| コスト推移 | | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費 | (単位:千円) | － | 2,624 | 6,416 | 12,424 | 8,429 | 36,555 | 22,100 |
| 事業費(直接経費) | (単位:千円) | 3,304 | 524 | 4,806 | 11,024 | 6,329 | 34,455 | 20,000 |
| 財源内訳 国県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 その他特定財源(特別会計→繰入金) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 一般財源(特別会計→事業収入) | | 3,304 | 524 | 4,806 | 11,024 | 6,329 | 34,455 | 20,000 |
| 人件費 | | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費(正規職員) | (単位:千円) | － | 2,100 | 1,610 | 1,400 | 2,100 | 2,100 | 2,100 |
| 正規職員従事者数 | (単位:人) | － | 0.30 | 0.23 | 0.20 | 0.30 | 0.30 | 0.30 |
| 臨時職員等従事者数 | (単位:人) | － | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 年間の改修件数 | 件 | 計画 | － | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 |
| | | | 実績 | 0 | 1 | 1 | 1 | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

成果指標としては、改修完了率などが考えられるが、実際には、想定外の緊急工事が発生してくるため、指標としての設定は困難である。

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | 博物館は市民が誇る歴史・文化の殿堂であり、同時に、市民が自らの創作活動成果を発表する場でもある。例年16～17団体・個人が展示活動に利用しており、安全で快適、美しい会場の提供が望まれている。その基盤として、市は責任を持って維持管理していく必要がある。また、文化庁の認定した重要文化財公開承認施設として、文化財の保存・公開に適した環境・設備の維持管理に努めねばならない。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | 有効である<br>● 概ね有効である<br>有効でない | 事業を計画的に進めるためには、計画通りの予算獲得が望まれる。施設・設備の劣化は急速に進んでいるので、計画を前倒しにして集中的に整備・改修を行うことができれば、不慮の事故等も未然に防止でき、より効果的であると思われる。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | 現行どおりでよい<br>● 見直しが必要 | 本館の施設・設備の日常的な管理については、既に民間に業務委託を行っている。整備・改修については、教育委員会教育施設課の専門職員の指導を仰ぎながら、事業を遂行しているのが現状である。本事業は、市の資産の維持管理としての施設整備に関わるものであり、建設以来の年数の経過とともに、重要度、緊急性が増加しているため、専任の技術職員（平成21年度まで配置）の再配置が希望される。 |

| 4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善 | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>施設・設備の劣化は年々進行している。本市社会教育の拠点施設のひとつとして、早急な改修・更新により、安全性・快適性を確保していく必要がある。改修計画の確実な推進により、市民は今後とも長く、生涯学習、文化活動発表の場として博物館を安定的かつ快適に利用することが可能となり、同時に、市も効率的な施設の維持管理、運営を行うことができる。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 外部評価の実施 | | 無 | 実施年度 | |
| 改善進捗状況等 | H27進捗状況 | | |
| | H27取組内容 | | |

| | |
|---|---|
| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>特になし |

| No | 4270835 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 八代妙見祭普及展示事業(創生加速化) | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | | |
| | | | | 款項目コード(款-項-目) | 9 | — | 7 | — | 5 | |
| 施策の体系(八代市総合計画における位置づけ) | 基本目標(章) | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード(大ー中ー小) | 2 | — | 41 | — | 37 | |
| | 施策の大綱(節)【政策】 | 4 | 文化のかおり高いまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | | | | | |
| | 施策の展開(項)【施策】 | 1 | 伝統の継承・活用と八代の文化の創造 | | 施策大項目 | | | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 2 | 芸術・文化活動の推進 | | 施策小項目 | | | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要(全体事業の内容) | 八代妙見祭に出される笠鉾本蝶蕪について、「笠鉾大解剖！2～しゃれた町印・本蝶蕪」と題し、その構造と装飾について紹介し、ユネスコ無形文化遺産を契機とする市民の郷土理解促進と、八代地域の観光PRにつなげる。 |
| 実施手法(該当欄を選択) | 全部直営　一部委託　全部委託<br>● 補助金(補助先:　地方創生加速化交付金　)<br>その他( |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務(該当欄を選択) | 1 義務である |
|---|---|---|---|---|
| | 平成27年度 | 平成28年度 | | ● 2 義務ではない |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象(誰・何を) | 市民及び市外からの来館者 |

| 事業内容(手段、方法等) | 成果目標(どのような効果をもたらしたいのか) |
|---|---|
| 「笠鉾大解剖！2～しゃれた町印・本蝶蕪(仮称)」<br><br>会場　特別展示室<br>後援　八代妙見祭保存振興会<br>協賛　八代市立博物館友の会<br><br>概要　八代妙見祭の神幸行列に参列する笠鉾本蝶蕪について、伝来するさまざまな資料や記録を展示・公開し、その構造と装飾についてくわしく紹介する。会期中には、担当学芸員による講演会を開催する。<br><br>＊本事業は、平成28年度へ繰越し、下記の日程で開催する。<br>会期　平成29年2月3日（金）～3月20日（月）　40日間 | ユネスコ無形文化遺産登録を契機に盛り上がりを見せる市民の郷土意識、妙見祭への理解のさらなる促進を図り、同時に市外への観光PRの一助とする。 |

| コスト推移 | | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費 | (単位:千円) | － | 0 | 0 | 4,941 | 0 | 0 | 0 |
| 事業費(直接経費) | (単位:千円) | 0 | 0 | 0 | 951 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 国県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 471 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 その他特定財源(特別会計→繰入金) | | 0 | 0 | 0 | 480 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 一般財源(特別会計→事業収入) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 人件費 | | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費(正規職員) | (単位:千円) | － | 0 | 0 | 3,990 | 0 | 0 | 0 |
| 正規職員従事者数 | (単位:人) | － | 0.00 | 0.00 | 0.57 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 臨時職員等従事者数 | (単位:人) | － | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示日数や展示作品の点数が指標としてあげられそうであるが、展覧会では文化財保護の見地から、作品の展示日数に限度があり、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は展示ジャンルにより大きく変動するため一様には比較できず、活動指標として設定、数値化することは困難である。

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 展覧会総入館者数 | 入館者の総数が、文化水準の向上を図るひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。 | 人 | 計画 | － | | | | 2,000 | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | 入館者の理解度（会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数／全回答者数） | アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。 | % | 計画 | － | | | | 85 | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | ユネスコ無形文化遺産登録という大きな契機のなかで、八代の伝統文化を市内外へ発信、冬の観光に彩りを添えるなど、市の掲げる「文化のかおり高いまちづくり」に沿った地方創生事業のひとつとして、重要な役割を果たすことができる。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | 有効である<br>● 概ね有効である<br>有効でない | 今後、同様の予算の確保、拡充が可能であれば、市の観光素材としてさらに充実した企画・内容の提供が可能。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | ● 現行どおりでよい<br>見直しが必要 | 本事業の実施には、担当者の高い専門性と経験・実績が求められるため、現状では博物館以外に適当な人材を求めがたい。受益者負担については、現今の経済情勢を考えると、適当であると考えられる。 |

| 4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善 | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>本事業は、市の観光素材としても一定の役割を果たすことが可能なため、今後とも、機会があれば実施が求められるところである。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 外部評価の実施 | | 無 | 実施年度 | |
| 改善進捗状況等 | H27進捗状況 | | |
| | H27取組内容 | | |

| | |
|---|---|
| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>特になし |

| No | 4270831 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 博物館特別展覧会事業（秋季） | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | | |
| | | | | 款項目コード（款-項-目） | 9 | — | 7 | — | 5 | |
| 施策の体系（八代市総合計画における位置づけ） | 基本目標（章） | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード（大ー中ー小） | 2 | — | 41 | — | 15 | |
| | 施策の大綱（節）【政策】 | 4 | 文化のかおり高いまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | 3 | 誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ” | | | |
| | 施策の展開（項）【施策】 | 1 | 伝統の継承・活用と八代の文化の創造 | | 施策大項目 | 2 | 健やかな暮らしの実現 | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 2 | 芸術・文化活動の推進 | | 施策小項目 | 2 | 学び・教育の充実 | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要（全体事業の内容） | 八代の歴史・文化に関する館独自の調査研究に基づき、新しい八代の歴史・文化像を解明する。現存する資料の徹底的な調査を行い、各地より借用した関連資料と比較対照させることにより、それらを日本史全体の流れの中に位置づけて、市内外に広く紹介する。また、独自に編集した展覧会図録を刊行、会期中には学芸員・外部講師による特別講演会等を開催する。 |
| 実施手法（該当欄を選択） | ● 全部直営　一部委託　全部委託<br>補助金（補助先：　）<br>その他（ |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務（該当欄を選択） | 1 義務である |
|---|---|---|---|---|
| | 合併前 | 未定 | | ● 2 義務ではない |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象（誰・何を） | 市民（幼児から高齢者まで）及び市内外からの来館者 |

| 事業内容（手段、方法等） | 成果目標（どのような効果をもたらしたいのか） |
|---|---|
| 「交流する弥生人―邪馬台国の時代のやつしろ」<br><br>会期　平成27年10月23日（金）～11月29日（日）開館日数33日間<br>会場　特別展示室・第二常設展示室<br>共催　熊本日日新聞社<br>協賛　公益財団法人宮嶋利治学術財団<br><br>○弥生時代、地方の小権力が後のヤマト王権に繋がる大きな政治勢力に統合されていった激動の時代、八代はどのような歴史を歩んでいったのか、西日本各地から出土した考古資料によって、解き明かす。<br>○会期中に、外部講師による特別講演会、学芸員による特別講演会、こども講座各1回を開催する。<br>○展覧会出品資料と解説をまとめた展覧会図録（Ａ4版88ページ）を刊行。 | 九州新幹線建設に先立つ事前発掘などにより、八代地方では多くの弥生遺跡が発見され、多くの遺物が知られるようになった。これらと、西日本各地の弥生時代の出土遺物を比較検討することによって交流する弥生人たちの姿を追い、ムラからクニへ、やがてヤマト王権へと展開していった時代の流れを、八代、肥後という地方の視点から理解してもらう。教科書にも登場する銅鐸（神戸市・桜ヶ丘4号銅鐸）など国宝3点を含む多くの実物資料を通して、来館者に弥生時代の息吹を体感してもらう。 |

| コスト推移 | | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費 | （単位：千円） | － | 9,981 | 13,470 | 8,022 | 16,200 | 16,330 | 16,330 |
| 事業費（直接経費） | （単位：千円） | 9,045 | 4,241 | 7,660 | 3,752 | 8,500 | 8,630 | 8,630 |
| 財源内訳 国県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 その他特定財源（特別会計→繰入金） | | 2,021 | 2,061 | 1,481 | 2,421 | 2,360 | 1,500 | 1,500 |
| 財源内訳 一般財源（特別会計→事業収入） | | 7,024 | 2,180 | 6,179 | 1,331 | 6,140 | 7,130 | 7,130 |
| 人件費 | | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費（正規職員） | （単位：千円） | － | 5,740 | 5,810 | 4,270 | 7,700 | 7,700 | 7,700 |
| 正規職員従事者数 | （単位：人） | － | 0.82 | 0.83 | 0.61 | 1.10 | 1.10 | 1.10 |
| 臨時職員等従事者数 | （単位：人） | － | 0.33 | 0.33 | 0.00 | 0.33 | 0.33 | 0.33 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示日数や展示作品の点数が指標としてあげられそうであるが、展覧会では文化財保護の見地から、1作品についての展示日数に限度があり、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は展示ジャンルにより大きく変動するため一様には比較できず、活動指標として設定、数値化することは困難である。

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 展覧会総入館者数 | 入館者の総数が、成果目標の達成度を測る、ひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。 | 人 | 計画 | － | 4,500 | 3,000 | 3,500 | 4,500 | 4,000 |
| | | | | 実績 | 3,511 | 4,459 | 4,540 | 3,390 | － | － |
| ② | 入館者の理解度（会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数／全回答者数） | アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。 | % | 計画 | － | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 |
| | | | | 実績 | 94.6 | 92.5 | 92.5 | 93 | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | 八代の歴史・文化の掘り起こしを目的とする本事業は、本市の掲げる「文化のかおり高いまちづくり」の基盤となる事業であり、近年、市民のみならず、市外からの評価も高い。国・県・民間に類似する事業はない。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | 有効である<br>● 概ね有効である<br>有効でない | 八代の歴史・文化の実像解明に、年々大きな成果を挙げている。展覧会ごとに刊行する展覧会図録は、学校教育や生涯学習の素材、「八代」に関する正確な情報源として幅広く活用されている。今後、いっそうの予算拡充が可能であれば、さらに充実した規模・内容の提供が可能である。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | ● 現行どおりでよい<br>見直しが必要 | 展覧会の目玉となる貴重資料借用の成否は、博物館専門職員への信頼にかかるところが大きい。任期のある指定管理者制度のもとでは、その人材育成が困難であり、導入した場合、現状のような水準の展覧会開催は困難になると考えられる。本事業においては、展覧会の経費総額に応じて、その都度、入館料を設定し、受益者負担の適正化を図っている。 |

## 4 （Action）事務事業の方向性と改革改善

| | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>本展覧会は、八代の歴史・文化に対する市民の誇りを醸成するための大切な事業である。市内のみならず市外からの期待にも応えられる展覧会を提供するためには、一定規模の財源が必要である。しかしながら、このような文化事業は本来、採算性にはなじまず、民間に依存すれば開催は不可能であると考えられる。本事業は、市の掲げる「文化のかおり高いまちづくり」の根幹に関わる事業であり、今後とも、市の実施により継続していく必要がある。会期中の講座・講演会、その他の催しについては、引き続き企業や市民団体などと積極的に連携し、市民協働の実現に向けて工夫を重ねていきたい。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 外部評価の実施 | | 有：外部評価 | 実施年度 | 平成22年度 |
| 改善進捗状況等 | H27進捗状況 | 3.　現状推進 | | |
| | H27取組内容 | 展覧会期間中に、以下の体験講座を市民協働により開催した。<br>〇公益財団法人宮嶋利治学術財団との共催によるこども講座「弥生人の宝物、小銅鐸をつくろう！」 | | |

| | |
|---|---|
| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>博物館や図書館は市民の心を豊かにするところで、財政が厳しい折ではあるが、一概に費用対効果等予算面だけを論じることは望ましくない。児童生徒等への広報に努めながら、八代の文化発展のために頑張って欲しい。 |

| No | 4270832 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 博物館特別展覧会事業（春季） | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | | |
| | | | | 款項目コード（款-項-目） | 9 | — | 7 | — | 5 | |
| 施策の体系（八代市総合計画における位置づけ） | 基本目標（章） | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード（大ー中ー小） | 2 | — | 41 | — | 16 | |
| | 施策の大綱（節）【政策】 | 4 | 文化のかおり高いまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | 3 | 誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ” | | | |
| | 施策の展開（項）【施策】 | 1 | 伝統の継承・活用と八代の文化の創造 | | 施策大項目 | 2 | 健やかな暮らしの実現 | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 2 | 芸術・文化活動の推進 | | 施策小項目 | 2 | 学び・教育の充実 | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要（全体事業の内容） | 各地の美術館・博物館が所蔵する貴重な歴史資料や、絵画・陶磁器といったすぐれた芸術作品などのコレクションを一括して借用、一堂に公開することにより、市民が八代に居ながらにして「本物」にふれ、楽しむ機会を提供する。これにより、市民の、新たな文化創造への意欲を高揚させ、八代の文化水準の向上を図る。 |
| 実施手法（該当欄を選択） | ● 全部直営　一部委託　全部委託<br>補助金（補助先：　）<br>その他（ |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務（該当欄を選択） | 1 義務である<br>● 2 義務ではない |
|---|---|---|---|---|
| | 合併前 | 未定 | | |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象（誰・何を） | 市民（幼児から高齢者まで）及び市外からの来館者 |

| 事業内容（手段、方法等） | 成果目標（どのような効果をもたらしたいのか） |
|---|---|
| 「豪華絢爛！長崎刺繍―くんちに息づく風流の心」<br><br>会期　平成27年4月24日（金）～6月7日（日）開館日数39日間<br>会場　特別展示室・第二常設展示室<br>協賛　公益財団法人宮嶋利治学術財団・八代市立博物館友の会<br>後援　長崎伝統芸能振興会<br><br>○わが国を代表する祭礼である「長崎くんち」を彩る、笠鉾の垂や船頭衣装を飾る長崎刺繍の作品・関係資料を、熊本県内ではじめて一堂に公開する。<br>○会期中、外部講師による特別講演会2回、体験講座1回を開催する。 | 市民及び来館者に、八代妙見祭とも関わりの深い「長崎くんち」に関する歴史・美術の傑作の数々を身近に鑑賞し、楽しんでもらう。同時に、地域の祭礼にかける人々の思いや取り組みについて、歴史的な経緯を踏まえながら、理解を深めてもらい、その感動を、新たな市民文化創造への糧としてもらう。 |

| コスト推移 | | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費 | （単位：千円） | － | 14,194 | 8,272 | 9,217 | 11,400 | 8,960 | 8,960 |
| 事業費（直接経費） | （単位：千円） | 3,003 | 8,454 | 2,952 | 6,347 | 6,500 | 4,060 | 4,060 |
| 財源内訳 国県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 その他特定財源（特別会計→繰入金） | | 407 | 3,426 | 664 | 1,920 | 2,000 | 800 | 800 |
| 財源内訳 一般財源（特別会計→事業収入） | | 2,596 | 5,028 | 2,288 | 4,427 | 4,500 | 3,260 | 3,260 |
| 人件費 | | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費（正規職員） | （単位：千円） | － | 5,740 | 5,320 | 2,870 | 4,900 | 4,900 | 4,900 |
| 正規職員従事者数 | （単位：人） | － | 0.82 | 0.76 | 0.41 | 0.70 | 0.70 | 0.70 |
| 臨時職員等従事者数 | （単位：人） | － | 0.33 | 0.25 | 0.33 | 0.33 | 0.33 | 0.33 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示日数や展示作品の点数が指標としてあげられそうであるが、展覧会では文化財保護の見地から、作品の展示日数に限度があり、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は展示ジャンルにより大きく変動するため一様には比較できず、活動指標として設定、数値化することは困難である。

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 展覧会総入館者数 | 入館者の総数が、文化水準の向上を図るひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。 | 人 | 計画 | － | 3,000 | 6,000 | 3,500 | 6,500 | 6,500 |
| | | | | 実績 | 4,741 | 1,874 | 9,319 | 3,079 | － | － |
| ② | 入館者の理解度（会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数／全回答者数） | アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定 | % | 計画 | － | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 |
| | | | | 実績 | 89.9 | 78.3 | 93.4 | 94.9 | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | 展覧会の開催が市民の文化創造にかける意欲を高揚させ、それが市の文化水準向上につながり、ひいては「文化のかおり高いまちづくり」の一翼を担っており、さらにレベルの高い展覧会を求める声も多い。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | 有効である<br>● 概ね有効である<br>有効でない | 市民の文化創造に多大な刺激を与えると同時に、児童生徒や教職員へ鑑賞学習の機会を提供するなど、教育面でも重要な役割を果たしている。予算の拡充ができれば、さらに充実した規模・内容の提供も可能である。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | ● 現行どおりでよい<br>見直しが必要 | 他館からのコレクション借用の成否は、博物館専門職員への信頼にかかるところが大きい。任期に限りのある指定管理者制度のもとでは、その人材育成が困難であり、導入した場合、現状のような水準の展覧会開催は困難になると考えられる。本事業においては、展覧会の経費総額に応じて、その都度、入館料を設定し、受益者負担の適正化を図っている。 |

| 4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善 | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>市民のニーズに応えることができる展覧会を開催するためには、一定規模の財源が必要である。しかしながら、八代市域の人口を考えた場合、それは採算ベースにかなうものではない。そのため、民間に依存すれば、ほとんど開催不可能であると考えられる。本事業は、市民文化形成に不可欠な役割を果たしている。そのため、今後とも、市民協働を図りながら、継続して市による実施・継続が求められるところである。 |

| 外部評価の実施 | | 有：外部評価 | 実施年度 | 平成22年度 |
|---|---|---|---|---|
| 改善進捗状況等 | H27進捗状況 | 3. 現状推進 | | |
| | H27取組内容 | 展覧会期間中に、以下の事業を市民協働により開催した。<br>〇八代市立博物館友の会との共催による特別講演会「長崎刺繍の工程について」講師：嘉勢照太（長崎刺繍技術保存者）<br>〇公益財団法人宮嶋利治学術財団との共催による体験講座「長崎ししゅう職人のワザに挑戦！」講師：嘉勢路子（長崎刺繍再発見塾塾長） | | |

| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>熊本地震で中止になった「円山応挙展」は、再度、実現できないか。<br>博物館や図書館は市民の心を豊かにするところで、財政が厳しい折ではあるが、一概に費用対効果等予算面だけを論じることは望ましくない。児童生徒等への広報に努めながら、八代の文化発展のために頑張って欲しい。 |
|---|---|

| No | 4270833 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 博物館特別展覧会事業(冬季) | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | | |
| | | | | 款項目コード(款-項-目) | 9 | — | 7 | — | 5 | |
| 施策の体系(八代市総合計画における位置づけ) | 基本目標(章) | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード(大ー中ー小) | 2 | — | 41 | — | 17 | |
| | 施策の大綱(節)【政策】 | 4 | 文化のかおり高いまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | 3 | 誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ” | | | |
| | 施策の展開(項)【施策】 | 1 | 伝統の継承・活用と八代の文化の創造 | | 施策大項目 | 2 | 健やかな暮らしの実現 | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 2 | 芸術・文化活動の推進 | | 施策小項目 | 2 | 学び・教育の充実 | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要(全体事業の内容) | 八代の歴史・文化・工芸の多様な事象を、さまざまな作品や資料によって紹介し、城下町八代の魅力を内外に発信する。和紙や八代焼などの工芸品、妙見祭をはじめとする祭礼など、城下町八代に育まれた独特の歴史文化を紹介すると同時に、“城下町「やつしろ」のお雛祭り”とタイアップし、本市観光にも資する。 |
| 実施手法(該当欄を選択) | ● 全部直営　一部委託　全部委託<br>補助金(補助先:　　)<br>その他( |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務(該当欄を選択) | 1 義務である |
|---|---|---|---|---|
| | 合併前 | 未定 | | ● 2 義務ではない |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象(誰・何を) | 市民（幼児から高齢者まで）及び市外からの来館者 |

| 事業内容(手段、方法等) | 成果目標(どのような効果をもたらしたいのか) |
|---|---|
| 「わび・さびの美学から清雅な文人趣味まで～八代焼の茶道具と花入」<br><br>会期　平成28年2月12日（金）～3月27日（日）　39日間<br>会場　特別展示室<br>共催　八代市立博物館友の会<br><br>○八代焼（高田焼）は400年の歴史を持つ伝統的工芸品である。博物館では、この郷土の誇る工芸品を、開館以来、資料収集の柱の一つに据えてきた。本展覧会では、本館の収蔵品を中心に、松井文庫や個人所蔵の作品も含め、茶器と花器という雅な器にしぼった展観を行う。<br>○会期中に、外部講師による特別講演会、体験講座各1回を開催する。 | 郷土が誇る伝統工芸品・八代焼のうち、最もよく知られた茶の世界に関わる作品を充分に堪能していただく。同時に、八代焼陶工の流れ、技術的系譜など、その歴史についての理解を深めてもらう。 |

| コスト推移 | | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費 | (単位:千円) | － | 4,109 | 4,185 | 0 | 3,950 | 4,385 | 4,385 |
| 事業費(直接経費) | (単位:千円) | 692 | 679 | 405 | 0 | 450 | 885 | 885 |
| 財源内訳 国県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 その他特定財源(特別会計→繰入金) | | 227 | 347 | 405 | 0 | 450 | 480 | 480 |
| 財源内訳 一般財源(特別会計→事業収入) | | 465 | 332 | 0 | 0 | 0 | 405 | 405 |
| 人件費 | | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費(正規職員) | (単位:千円) | － | 3,430 | 3,780 | 0 | 3,500 | 3,500 | 3,500 |
| 正規職員従事者数 | (単位:人) | － | 0.49 | 0.54 | 0.00 | 0.50 | 0.50 | 0.50 |
| 臨時職員等従事者数 | (単位:人) | － | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示日数や展示作品の点数が指標としてあげられそうであるが、展覧会では文化財保護の見地から、作品の展示日数に限度があり、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は展示ジャンルにより大きく変動するため一様には比較できず、活動指標として設定、数値化することは困難である。

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 展覧会総入館者数 | 入館者の総数が、成果目標の達成度を測る、ひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。 | 人 | 計画 | － | 2,000 | 2,000 | 25,00 | | 2,000 |
| | | | | 実績 | 2,980 | 2,324 | 2,040 | 2,024 | － | － |
| ② | 入館者の理解度（会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数／全回答者数） | アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。 | % | 計画 | － | 85 | 85 | 85 | | 85 |
| | | | | 実績 | | 85.9 | 90 | 85.7 | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | 伝統文化の市内外への発信、催事の少ない冬に文化の彩りを添えるなど、市の掲げる「文化のかおり高いまちづくり」を進めるために、重要な役割を果たしている。事業の開催には、きわめて専門的な知識・経験と、良好な展示環境を必要とする反面、事業による収益は望めないため、民間の参入は期待できず、市が事業主体となる必要がある。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | 有効である<br>● 概ね有効である<br>有効でない | 郷土の歴史・文化を広く市民に伝えるほか、冬季における市の観光素材としても定着を見せている。今後、予算の拡充が可能であれば、さらに充実した企画・内容の提供も可能。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | ● 現行どおりでよい<br>見直しが必要 | 事業の実施には高い専門性と経験・実績を積んだ専門職員が求められるため、指定管理者制度にはなじまない。受益者負担については、平成23年度に本事業開催期間中の入館料を見直し100円値上げしており、現今の経済情勢を考えると、これ以上の値上げは難しい。 |

| 4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善 | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>展覧会を継続的に提供するためには、一定規模の財源が必要である。地域の特性に根ざした本展覧会は事業としての採算ベースに乗りにくく、そのため、民間に依存すれば、ほとんど開催不可能であると考えられる。しかしながら、本事業は、社会教育のみならず市の観光素材としても一定の役割を果たしており、今後とも、企業や市民団体などとの共催を図るなど、市民協働の実現に向けて努力を重ねながら、市による実施が求められるところである。 |

| 外部評価の実施 | | 有：外部評価 | 実施年度 | 平成22年度 |
|---|---|---|---|---|
| 改善進捗状況等 | H27進捗状況 | 3. 現状推進 | | |
| | H27取組内容 | 展覧会期間中に、以下の事業を市民協働により行った。<br>〇八代市立博物館友の会との共催による特別講演会「八代焼象嵌について考える―朝鮮半島、九州陶磁の比較から」講師：家田淳一（佐賀県立九州陶磁文化館学芸課長）<br>〇八代市立博物館友の会の発会25年記念事業として、博物館編集によるガイドブック『八代焼』（B5版フルカラー、22ページ）を刊行。 | | |

| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>博物館や図書館は市民の心を豊かにするところで、財政が厳しい折ではあるが、一概に費用対効果等予算面だけを論じることは望ましくない。児童生徒等への広報に努めながら、八代の文化発展のために頑張って欲しい。 |
|---|---|

| No | 4270834 |
|---|---|

# 事務事業評価票

| | |
|---|---|
| 所管部長等名 | 教育部長　釜　道治 |
| 所管課・係名 | 博物館　学芸係 |
| 課長名 | 福原　透 |

| 評価対象年度 | 平成27年度 |
|---|---|

## 1 (Plan) 事務事業の計画

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 博物館特別展覧会事業（夏季） | | | 会計区分 | 01 一般会計 | | | | | |
| | | | | 款項目コード（款-項-目） | 9 | — | 7 | — | 5 | |
| 施策の体系（八代市総合計画における位置づけ） | 基本目標（章） | 2 | 郷土を拓く人を育むまち | 事業コード（大ー中ー小） | 2 | — | 41 | — | 18 | |
| | 施策の大綱（節）【政策】 | 4 | 文化のかおり高いまちづくり | 総合戦略での位置づけ | 基本目標 | 3 | 誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ” | | | |
| | 施策の展開（項）【施策】 | 1 | 伝統の継承・活用と八代の文化の創造 | | 施策大項目 | 2 | 健やかな暮らしの実現 | | | |
| | 具体的な施策と内容 | 2 | 芸術・文化活動の推進 | | 施策小項目 | 2 | 学び・教育の充実 | | | |

| | |
|---|---|
| 事務事業の概要（全体事業の内容） | 歴史と文化情報を発信する博物館は、幅広い年齢層に親しまれることが求められる。それぞれのニーズに対応するため、多彩な展示活動を展開し、これに応えていく。八代地域の歴史・文化に対する再認識を目指し、特に夏期休暇中の児童生徒への教育的配慮に重点を置いた企画・内容の展覧会を中心に開催する。 |
| 実施手法（該当欄を選択） | ● 全部直営　一部委託　全部委託<br>補助金（補助先：　）<br>その他（ |
| 根拠法令、要綱等 | 社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則 |

| 事業期間 | 開始年度 | 終了年度 | 法令による実施義務（該当欄を選択） | 1 義務である<br>● 2 義務ではない |
|---|---|---|---|---|
| | 合併前 | 未定 | | |

## 2 (Do) 事務事業の実施

### 評価対象年度の事業内容等

| | |
|---|---|
| 対　象（誰・何を） | 市民（特に夏季休暇中の児童生徒及とその保護者）及び市内外からの来館者 |

| 事業内容（手段、方法等） | 成果目標（どのような効果をもたらしたいのか） |
|---|---|
| 「なるほど！妙見さん―これでキミも妙見博士！」<br>会期　平成27年7月17日（金）～8月30日（日）開館日数38日間<br>会場　特別展示室・第2常設展示室<br>特別協力　八代神社・八代市立博物館友の会<br><br>○妙見さんの名で親しまれる八代神社について、歴史・信仰・祭礼の三つの観点から、総合的にわかりやすく紹介する。古文書、絵図、仏神像など、関係する伝来の文化財を一堂に公開する。<br>○会期中に、学芸員による特別講演会、児童生徒と保護者のための歴史フィールドワーク各1回を開催する。 | 市民だれもが知っているようで、じつはよく知らない「妙見さん」の実像を、今日まで伝えられてきた貴重な実物資料と、わかりやい解説により、正確に理解してもらう。八代神社の建て替えのなかで発見された初公開の資料も、はじめて紹介する。 |

| コスト推移 | | 25年度決算 | 26年度決算 | 27年度決算 | 28年度予算 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 総事業費 | （単位：千円） | － | 4,831 | 4,590 | 5,066 | 3,950 | 4,510 | 4,510 |
| 事業費（直接経費） | （単位：千円） | 1,176 | 701 | 810 | 1,076 | 450 | 1,010 | 1,010 |
| 財源内訳 国県支出金 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 地方債 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 財源内訳 その他特定財源（特別会計→繰入金） | | 319 | 273 | 365 | 480 | 450 | 350 | 350 |
| 財源内訳 一般財源（特別会計→事業収入） | | 857 | 428 | 445 | 596 | 0 | 660 | 660 |
| 人件費 | | 25年度決算 | 26年度 | 27年度 | 28年度見込 | 29年度見込 | 30年度見込 | 31年度見込 |
| 概算人件費（正規職員） | （単位：千円） | － | 4,130 | 3,780 | 3,990 | 3,500 | 3,500 | 3,500 |
| 正規職員従事者数 | （単位：人） | － | 0.59 | 0.54 | 0.57 | 0.50 | 0.50 | 0.50 |
| 臨時職員等従事者数 | （単位：人） | － | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |

| 活動指標 事業の活動量・実績の数値化 | 指標名 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ② | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |
| ③ | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示日数や展示作品の点数が指標としてあげられそうであるが、展覧会では文化財保護の見地から、作品の展示日数に限度があり、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は展示ジャンルにより大きく変動するため一様には比較できず、活動指標として設定、数値化することは困難である。

| 成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 展覧会総入館者数 | 入館者の総数が、成果目標の達成度を測る、ひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。 | 人 | 計画 | － | 2,500 | 2,000 | 2,500 | 2,500 | 2,500 |
| | | | | 実績 | 2,248 | 2,684 | 2,127 | 2,070 | － | － |
| ② | 入館者の理解度（会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数／全回答者数） | アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。 | % | 計画 | － | 85 | 85 | 85 | 85 | 85 |
| | | | | 実績 | | 73.4 | 91.5 | 93.3 | － | － |
| ③ | | | | 計画 | － | | | | | |
| | | | | 実績 | | | | | － | － |

〈記述欄〉※数値化できない場合

## 3 （Check） 事務事業の自己評価

| 着眼点 | チェック | 判断理由 |
|---|---|---|
| **◆事業実施の妥当性を備えているか**<br>・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか<br>・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか<br>・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか） | ● 妥当である<br>概ね妥当である<br>妥当でない | 八代の歴史・文化には、市民だれもが知っているようで知らないことが多い。実物資料を通して新たな知識を得ることのできる機会は、ますます重要になってきている。教育的配慮のもとに行われる、このような地域に関する企画は収益性が薄いため、民間の参入は期待できない。貴重な学習の機会を確保するために、市が事業主体となる必要がある。 |
| **◆活動内容は有効なものとなっているか**<br>・成果目標の達成状況は順調に推移しているか<br>・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか） | 有効である<br>● 概ね有効である<br>有効でない | 児童生徒の夏期休暇中の自由研究、市民の生涯学習の素材として利用されるなど、年々、有効活用されている。今後、いっそうの予算拡充が可能であれば、さらに充実した規模・内容の提供も可能である。 |
| **◆実施方法は現行どおりでよいか**<br>・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か<br>・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か<br>・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か<br>・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止） | ● 現行どおりでよい<br>見直しが必要 | 事業の実施には高い専門性と経験・実績を積んだ専門職員が求められるため、指定管理者制度にはなじまない。受益者負担については、平成23年度に本事業開催期間中の入館料を見直し100円値上げしており、現今の経済情勢を考えると、これ以上の値上げは難しい。 |

## 4 （Action）事務事業の方向性と改革改善

| | |
|---|---|
| 今後の方向性<br>（該当欄を選択） | 1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）<br>4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充） |
| 今後の方向性の理由、改革改善の取組等 | （今後の方向性の理由、改革改善の取組をもたらそうとする効果など）<br>主に児童生徒を対象とした教育的配慮のもとに企画される展覧会については、採算性の面からみて民間の参入はきわめて困難である。本事業は、市の次代を担う世代育成のために重要な役割を果たしているので、今後とも継続して、市による実施が求められるところである。学校現場との連携をいっそう強めつつ、わかりやすく、ためになる、楽しい企画を開催していきたい。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 外部評価の実施 | 有 ： 外部評価 | 実施年度 | 平成22年度 |
| 改善進捗状況等 H27進捗状況 | 3. 現状推進 | | |
| 改善進捗状況等 H27取組内容 | 夏季休暇中の児童生徒と保護者のために、歴史フィールドワーク「親子で探検！いざ“妙見さん”へ」と題し、八代神社とその周辺の史跡を巡る催しを会期中に実施した。 | | |

| | |
|---|---|
| 決算審査特別委員会における意見等 | （委員からの意見等）<br>博物館や図書館は市民の心を豊かにするところで、財政が厳しい折ではあるが、一概に費用対効果等予算面だけを論じることは望ましくない。児童生徒等への広報に努めながら、八代の文化発展のために頑張って欲しい。 |